

一 金石銘文墨書

石碑や鐘銘のように、金属・岩石・木材など、紙以外の物体に書かれた文字を金石文というが、文様や画像、経文や書籍の奥書まで金石文としてあつかう場合もある。金石文は永く後世に伝えるために作られたものであり、したがって銘文の内容は、当時の社会や文化の背景を知るうえで貴重な史料である。

川辺町にも数多くの金石文が伝わっている。そのうち石造物以外のほとんどは、神社・寺院に所蔵されているが、一部個人所有のものもある。その中から、主に江戸時代のものを中心として収録した。

石造物 町内にある無数の石造物は、既刊『川辺町の文化財 石造物編』に収録したので、ここでは石塔・石碑・

石燈籠・手洗石のうち、各地区の代表的なものを対象とした。

半鐘 戦前町内の各寺院には、梵鐘・半鐘が設置されていたが、戦時下の供出にあい、現在では養瑞寺・曹源寺の二か寺に戦前の半鐘が残っている。

磬子 けいす・けいしという。寺院の本堂などにある銅製鉢型のものも、一般に磬子とよんでいる。各寺院の什物となっているが、代表的なものを対象とした。

雲版 寺で合図のため打ち鳴らす楽器で、青銅製または鉄製の雲形のもの。主に禅寺で用いる。町内では、妙楽寺にあるのが唯一のものである。

鰐口 神社や仏堂の軒下につるしてある金属製の道具で、下方に横長の口がある。参拝者は布で編んだ綱を振っ

て打ち鳴らす。

狛犬 神社の社頭や社殿の前に据え置かれた一対の獅子に似た獣の像。魔よけのために設置したという。太部古天神社にある二対の狛犬も、相当古いものであるが、刻文がないため対象外とした。

獅子頭 木製の獅子の頭で、獅子舞に用いる。太部古天神社・阿夫志奈神社とも、かなり古いものである。

棟札 棟上げの時、工事の由来、建築の年月、建築者または工匠の名などを記して、棟木に打ちつける札。各神社とも年代の古いものを対象とした。

高札 (はつと) (おきてがき) 法度・掟書などを記し、人目をひく所に高くかかげた板札・立札。明治維新のものが多く残っている。

絵馬 祈願または祈願成就にさいして、お礼の印として神社・寺院に奉納する板絵。絵柄は馬ばかりでなく、祈願の趣旨を描くものもある。

画像 人物を描いた画像で、旗本川辺大嶋氏の初代・二代の画像があるが、賛のあるのは二代義唯像のものである。

頂相 ちんぞう・ちんそうといい、僧侶の肖像画を指す。師子相承の証明のために、師から弟子に、師の自賛のある画像を授ける習慣があった。

一 石塔刻文

○町内下川辺

川端墓地地内

三 石塔刻文

○町内西栃井

栃井神社地内

宝曆十三癸未天 下川邊村

奉納大乘妙典六十六部供養之塔

仲春二十四日 行者一玄

(表) 氏神

天正四_{丙子}五月五日

(裏) 長州萩御城主松平大膳大夫勝秀家來

藤掛與三右衛門重位

二 石燈籠刻文

○町内下川辺

中組地内

四 石塔刻文

○町内西栃井

松原墓地地内

文化十五寅三月建

嘉永五年壬子年三月吉日 十

永代常夜燈 方

金毘羅大權現 施

村中安全 講中 主

元文二巳年栃井區

奉書寫大白牛車

季晝月吉辰良施主敬白

五 石碑刻文

○町内西栃井

栃井神社地内

世々ひらけ雪霜つみし木根橋

暉盛子

栃井の里の冬のゆたかさ

暉雪菴

(表)

刻印

木根橋亦一舊蹟盖由 景行帝之開木曾路時始

焉云里曰栃井水曰能田川祠曰天王社社前水之

木 東厓有樹根數株駢而横迸以衝西厓固天造橋架

根 曾不竣人為是所謂木根橋也今也土人有橋實雄

橋 者恐其或陵谷以變謀不朽於 邦君執事 邦君

碑 察之曰爲賜國風首句 邦君所師其聯以成三十

陰 一字也實雄大喜遂鐫之于石焉尔 邦君號暉盛

記 子其師謂誰江戸聞人暉雪菴也

弘化乙巳復月

藤城製撰併篆額印

六 石碑刻文

○町内西栃井

栃井神社地内

木 无心(こころなし)といはましものか木根すら

根 はしと成ても人わたすなり

橋 田中大秀

七 石塔刻文

○町内中川辺

大保多墓地地内

天下 寛保三亥年

奉納大乘妙典日本回國

泰平 二月吉日 願主 勝村権兵衛

八 石塔刻文

○町内中川辺

御嶽神社地内

一〇 石碑刻文

○町内中川辺

御嶽神社地内

大嶋甲斐守義彬

奉御武運長久御領内安全五穀成就祈所

開鋤年嘉永三^{庚戌}冬日

九 石碑刻文

○町内中川辺

横町地内

右ひだ道

(表) 道祖神

左^{かし}を道
たかさわ

(裏) 文政十一歳上組

一 金石銘文墨書

一一 石碑刻文

○町内中川辺

大谷堤防地内

當國可兒郡帷子庄中切葉王寺兼洛伍大阿闍梨慧融法印
顧覺行者尊惟悟驗蜜奧藏當國一流御嶽登山講法師所謂
孫上講加茂可兒惠那武儀連所講衆神德得利益事肇非等
服故上御祈願所御取立八坂山安櫻山開両峯權現鎮座建
宮□發元正憑懇志成就不變大祝感有余於茲去十二月□
給一允空帚恐後也鐫石成像崇當山講師行者□□明歡稅
眉止石像魂永勇莊安座布願□□□□□□□□□□
參詣衆人祈願滿□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□

□□□□年^{甲寅}仲夏日

八坂山鴨先立

藤原實□謹書

七

御即位記念

(表) 大谷溜池改築記念碑

改築事業 隧道開鑿
堤防嵩置

(裏) 大正三年十月二十七日起工 中川邊區

大正四年五月二十一日竣工 西栃井區

一二 石碑刻文

○町内中川辺

山川橋地内

大正十一年二二年之際岐阜縣加茂郡川邊八百津間改修郡道而飛驒川當其衝舊稱椿渡以航濟之故每阻水滯人以爲患於是川邊町會決架橋之議然以工費大不能輒行山本鎌次郎君慨然而起自捐鉅額資爲供衆胥響應乃經郡縣贊同始得起工十二年三月告竣名曰山川橋鳴呼自航之橋通阻爲泰固雖昭代餘澤亦職由山本

記 君公共博施之德也君生愛知縣西春日井郡西春村明念 治二十年移住本町中川邊區爲區長又爲町會議員勤碑 儉治産成陶朱之富矣橋既成欲鐫石以垂不朽川邊町

長西村才三郎君來求余文及記所聞銘曰以興濟人不失惠兮橋梁一成功于世兮惟仁及物延百歲兮

大正十二年六月

岐阜縣師範學校教諭鈴木於兔之助撰

岐阜縣師範學校教諭高木令治篆額并書

一三 石燈籠刻文

○町内中川辺

太部古天神社地内

泉州住

縣五兵衛忠正

大

北渡辺九郎□□

同 太郎□□

同 与三□□

同 新次□□

天和三^癸亥歲
奉寄進御石燈籠
九月廿五日

渡辺 孫助
同 孫作
同 次郎作
紅屋新兵衛

一四 石塔刻文

○町内石神

曹源寺地内

花園雪潭拜書

一石二字 經王塔

明治廿二己丑曆八月八日
同 廿三庚寅十一月八日
宝塔供養

一五 石燈籠刻文

○町内石神

天満天神社地内

宝曆四^甲戌年四月吉日

一六 石塔刻文

○町内上川辺

奥神坂地内

天下 天保七^丙申歲願主上河邊村
奉納大乘妙典日本回国中供養塔
泰平 十一月吉祥日 村山徳三良

一七 石碑刻文

○町内上川辺

神坂地内

第一部 記録の部

一〇

右ひだ道

(表) 自是

左せき道

(裏) 享保八_{癸卯}年五月吉日

一八 石碑刻文

○町内上川辺

神坂地内

二〇 石塔刻文

○町内鹿塩

竹之腰地内

享保十八_{癸丑}年十一月吉祥日

奉寄進夜燈

上川邊村

白村兵三郎

吉次

御 大正三年三月竣工

即 記念溜池

位 石神區

一九 石燈籠刻文

○町内上川辺

田中藥師堂地内

安政六年

西國三拾三所

奉納仏閣

四國八拾八所

未四月廿八日

鹿塩村

井戸助左衛門

二一 石燈籠刻文

○町内鹿塩

栃洞薬師堂地内

二三 石碑刻文

○町内下飯田

大切地内

享保七^{壬寅} 仲秋如意宝珠月
奉寄進

南無薬師瑠璃光如来

濃州賀茂郡鹿塩村

井戸作左衛門

(表) 右みたけかね山
左なえぎほそめ 道

(裏) 建立嘉永五年九月日

二二 石塔刻文

○町内下飯田

北洞地内

二四 石塔刻文

○町内福島

久口地内

元禄十六年

爲三界万靈有縁無縁

嘉永五子天
庚申塔

講中

二五 石燈籠刻文

○町内福島

加茂神社地内

二六 石塔刻文

○町内比久見

郷呂地内

比久見村中

為岡村中

栃井村中

上飯田村中

下飯田村中

福島村中

山本村中

信友村中

則光村中

今村中

西脇村中

天和二年

前住妙樂地藏再興絶心和尚大禅師

壬戌 三月十五日 馬場氏

二七 石塔刻文

○町内比久見

桑の木観音堂地内

宝曆十_{庚辰}稔

諏訪大明神

奉寄進加茂大明神永代燈明

羽掛大明神

十月如意珠日

安政六_{己未}三月吉日

天下泰平

奉順拜扶桑國裏神社仏閣悉皆供養塔

五穀豊饒

二八 御手洗石刻文

○町内比久見

桑の木觀音堂地内

建於磐石而以崇敬國中繁榮鎮護神靈者也爲垂於由
緒不朽維時天保十三^{壬寅}仲秋良辰謹誌

祭主芳賀神社神主

田口出雲正大中臣行茂

馬場半兵衛周房

大願主 馬場源兵衛

村中惣人民

念佛講宗

貞享二年^{乙丑}三月吉日

同行二十人

二九 石塔刻文

○町内下吉田

清水平地内

三〇 石塔刻文

○町内下吉田

清水平地内

(表) 馬庄功義神靈

寬保三^{癸亥}五月吉辰日

觀世音下吉田講中

加茂郡下吉田村中

(裏)

曾享保之頃在于庄内山争于時在此翁名馬場庄助天
性才譽甲子鄉當終得於勝益豈在莫大之功乎去世既
經一百十有余霜空雖存其名更無記斯功焉然于茲在
托靈夢而點儉之墳墓頽落也依爲使厥功名知後世再

三一 石燈籠刻文

○町内下吉田

星神社地内

三三 御手洗石刻文

○町内下麻生

神明社地内

元禄十一^{戊寅}年九月如意珠日

奉寄進 下吉田村

季願人 馬場庄助
田口與衛門

元文三年午六月吉日
奉寄進手水鉢

當村

羽田弥助

三二 石塔刻文

○町内下麻生

徘徊觀音堂地内

三四 養瑞寺半鐘銘文

○町内中川辺

養瑞寺所藏

文化五辰年

西国八十八所

奉納秩父坂東

西国三十三所

徳山覺明居士

八日市

福井定吉

大

中山久藏
渡邊清左衛門

(解説)

養瑞寺の半鐘は、芸術的にすぐれているという理由で、太平洋戦争末期の供出からまぬがれた名鐘である。

濃州加茂郡

川辺村

養瑞寺

廿八日講中

拾六日講中

淨書

寶曆十三^{癸未}年正月

江劬栗太郡高野庄辻村

施工

田中五兵衛惟精

三五 曹源寺半鐘銘文

○町内石神

曹源寺所藏

(解説) 曹源寺の半鐘は、当町に伝わる最も古いもので、
芸術的にすぐれている名鐘である。

美濃州加茂郡石神村

長江山曹源寺寶器

一 金石銘文墨書

爲 圓山宗蝸庵主^{二親}

春岑智香大姉

菩提寄附焉

住持

祖海代

洛陽金座住

治工

近藤丹波祿

左久

元禄十三歲次庚辰

仲春如意珠月

同郡上川邊村

施主

水野弥八郎

三六 廣林寺磬子銘文

○町内下川辺

廣林寺所藏

三八 養瑞寺磬子銘文

○町内中川辺

養瑞寺所藏

爲先祖代々菩提 安政七庚申三月日

寄附人當所嶺川與治右衛門源吉邦

金光山廣林寺什物 智淨代

明治三十年一月養瑞寺第十四世住職水野惠明氏

寄進人遠藤利兵衛 神野新藏

三七 禪原寺磬子銘文

○町内西栃井

禪原寺所藏

三九 妙雲寺磬子銘文

○町内中川辺

妙雲寺所藏

濃芴賀茂郡栃井邑平田山禪原禪寺什持

文化六歲己四月如意珠日 現住錦林代

金竜子作

大正十參年十月 施主石神櫻井庄六八十八歲
妙雲寺日性代

四〇 曹源寺磬子銘文

○町内石神

曹源寺所藏

金竜子造 濃州加茂郡石神村長江山曹源禪寺寶器

現住祖珪代 四箇村惣檀中寄附焉 寶曆二歲申六月日

四三 長昌寺磬子銘文

○町内鹿塩

長昌寺所藏

四一 本覺寺磬子銘文

○町内上川辺

本覺寺所藏

濃州賀茂郡鹿塩村月桂山長昌禪寺什物 施主
惣檀中現住金威代 寬政十一庚申六月日求之

寬政十戊午年十月五日求焉現住義堅

上川邊村本覺寺什物

四四 善教寺磬子銘文

○町内比久見

善教寺所藏

四二 金昌寺磬子銘文

○町内上川辺

金昌寺所藏

文政六年 未十五月 講連中廿人 金竜子造

天保六乙未曆二月吉祥日濃劬賀茂郡上川邊村

檀家中寄進桂久山金昌寺什物住持玄守代叟之

四五 妙樂寺磬子銘文

○町内比久見

妙樂寺所藏

加茂郡比久見村妙樂寺 嘉永七年寅年

詞堂悟岩鐵心居士 馬場次左エ門父

善界良應菴主 山田淺右エ門父

轉堂境心居士 細田庄三郎父母

貴嶽妙富大姉

鐵道良心菴主 山田伊兵衛父

快雲良哉居士 小森喜藏父

離芳童子 山田菊次良子

右各靈金貳分ツゝ入

現住豁堂代

四七 常善寺磬子銘文

○町内下吉田

常善寺所藏

濃州賀茂郡下吉田邑慶養山常善禪寺什物 施主

當村檀方并他檀中 惟時文政六癸未歲七月吉辰

四八 臨川寺磬子銘文

○町内下麻生

臨川寺所藏

四六 龍洞寺磬子銘文

○町内比久見

龍洞寺所藏

爲器水宗圓居士 德岩守寶大姉菩提也長谷川

宗圓寄進 下麻生村龍雲山臨川寺

濃州路加茂郡米田莊比久見村寄附于虎丘山龍洞
禪寺 同郡和智村^(知)遠藤傳右衛門施主 天明三癸

卯小春日

四九 大雄寺磬子銘文

○町内下麻生

大雄寺所藏

大智山大雄寺什具 現住秀道代 十哲代酒造業
前島秀雄利道 爲初哲代 禪得院大道宗圓居士
智光院南岳惠諳大姉菩提寄進 昭和六年十月

五〇 妙樂寺雲版刻文

○町内比久見

妙樂寺所藏

(表) 寛保三歲癸亥四月如意日
濃州比久見法昌山妙樂禪寺

現住達鰲潭新添

(裏) 岐阜住治工
和泉守藤原貞次

五一 仙湯山壽命寺鰐口刻文

○町内鹿塩

若井輝夫氏所藏

一 金石銘文墨書

(解説) 壽命寺にあったと伝えられる青銅製のもので、
万治二年(一六五九)に鑄造されたものである。

(表) 奉修祈処南無藥師如来氏子献志 犬山 田中茂右
工門

万治二年己濃州加茂郡鹿塩村 若井長九郎

(裏) 九月吉日 うちならす兼のこずつに夢さめて あ
□□□□□□玉ぞうれしき

五二 水月山生蓮寺鰐口刻文

○町内比久見

桑の木観音堂所藏

(解説) 生蓮寺は江戸時代、美濃巡礼二八番札所として
巡拝の多かった寺院である。現在は桑の木観音堂としてそ
の名残りをとどめているが、鰐口は寛政十一年(一七九九)
に鑄造されたものである。

(表) 濃州加茂郡比久見村 水月山生蓮寺
奉掛桑觀世音菩薩御宝前

(裏) 願主同村安田六右エ門 福嶋村長谷川久右エ門
寛政十一年未二月吉辰 施主米田嶋中

五三 太部神社鰐口刻文

○町内比久見

太部神社所蔵

(解説) 年号の刻文はないが、江戸時代前期のものと推定できる。当町に伝わる最も古い鰐口である。

大梵天王村中

賀茂郡比久見村

五四 虚空蔵菩薩堂鰐口刻文

○町内下吉田

虚空蔵菩薩堂所蔵

(解説) 虚空蔵堂に所蔵されている青銅製のもので、享保一〇年(一七二五)に鑄造されたものである。

濃州加茂郡下吉田村

虚空蔵 享保十年巳正月吉日

五五 八縣大明神鰐口刻文

○町内下麻生

縣神社所蔵

(解説) 寛文九年(一六六九)に鑄造されたもので、当町に伝わる鰐口のうち最大のものである。近在にあった縣大明神の総社として、縣神社(下麻生)に掲げられていたものと推定される。

(表) 八縣大明神 濃州賀茂郡下麻生村
寛文九_{己酉}年十二月廿日

于時延寶六年_{戊午}九月吉祥日

(裏) 井戸三郎兵清光吉
小川大衛清吉廣

五七 八幡神社狛犬刻文

○町内下川辺

八幡神社所蔵

五六 俳原山観音寺鰐口刻文

○町内下麻生

俳原観音堂所蔵

濃州賀茂郡下川邊

八幡大菩薩

元禄十年丑八月十五日

社人渡邊久左衛門

(陶磁器製一対)

(解説) 俳原山観音寺の歴史は古いが、当観音堂に所蔵されている鰐口は、延宝六年(一六七八)に鑄造されたものである。

五八 春日神社狛犬刻文

○町内鹿塩

春日神社所蔵

濃州加茂郡下麻生村 本願人權大僧都寶勝院玄智同忠

兵衛

俳原山観音寺 濃州武儀郡上麻生村内大崎 本願人今

瀬八右衛門同源左衛門

濃州加茂郡鹿塩村

天王社

治工岐阜住 岡本伊右衛門尉藤原家進

元禄九年子ノ六月吉日

(陶磁器製一対)

五九 春日神社狛犬刻文

○町内鹿塩

春日神社所蔵

六一 太部古天神社獅子頭銘文

○町内中川辺

太部古天神社所蔵

濃州加茂郡鹿塩村

神明宮

元禄九年子ノ六月吉日

(土製一対)

(背部)

太部天神

延徳二年

六〇 太部神社狛犬刻文

○町内比久見

太部神社所蔵

六二 阿夫志奈神社獅子頭銘文

○町内上川辺

阿夫志奈神社所蔵

正徳三仲秋吉旦

天王社文壽院

久尻範竈

黒田作左衛

(瓦製一対)

(背部)

阿夫志奈御神前

氏子中

天文元年六月

六三 阿夫志奈神社獅子頭銘文

○町内上川辺

阿夫志奈神社所蔵

濃州賀茂郡下川邊村氏子 當地平安稼穡滋登 祈處

遷宮導司神主渡邊氏源綱
雄修焉

元禄拾年

阿夫志奈御寶前

(頭部)

御座野組

後藤重三郎

(裏)

御寄附長谷川庄五郎様
金貳両

飯田品右衛門殿 土墓石
金百足

下山幸右衛門殿 同百足

藤原平内殿 同百足

朽木造酒右衛門殿 金百足

小林儀左衛門殿

黒川傳内殿

小河原盤助殿

石代太七殿

已上御四人神璽御宮御机

御屏風御寄進金百足

六四 八幡神社棟札

○町内下川辺

八幡神社所蔵

(表)

名主木下太次右衛門

同郡蜂屋村大工石原利右
衛門藤原幹壽

享保十九歲次^{甲寅}十二月

同石原定右衛門藤原幹顯

与頭 櫻井久七郎

同郡中之番葺師道家伊兵

奉造替八幡宮一字天下泰平

衛藤原楚虎

六五 栃井神社棟札

○町内西栃井

栃井神社所蔵

宝永三竜集^丙 九月十五冀

土岐九郎次郎
庄士

御宇神位衆病無難無災

道家伊左衛門

奉造宮牛頭天王

久立珍重

拜殿一字郷里万年咄上

大工藤原金森氏

現住禪原花園末流賢龍記之

八左衛門

六七 太部古天神社棟札

○町内中川辺

六六 太部古天神社棟札

○町内中川辺

太部古天神社所蔵

太部古天神社所蔵

大日本国内濃州賀茂郡川邊庄惣 代官岡村作右衛門尉
社五社之舞堂御建立之願主大嶋 大工孫左衛門藤原朝
茂兵衛尉光政公為子孫繁昌武運 臣宗重
長久息災延命食下山城国京都居 大工孫介藤原朝臣宗
住之大工定奉行千田三右衛門尉 直
成作事奇食尾州清次居住之葺衆 大工甚蔵藤原朝臣宗
奉修造五社之神達來臨影向給以 信
功力速叶御願意為光政公御一行 大工與三左衛藤原朝
並臣下堅固競名譽為民幽遁風雨 臣治次

水火難領知全納弁悉為現世安穩 葺師清次住彌助 同
後生善生者也 栄林誌之 甚助 大工彦左衛門
于時慶長拾四白^己 林鐘吉辰 藤原朝臣吉久
西
大日本国美濃州賀茂郡川邊庄惣社至古
今天神備給当將軍家之武勝大嶋茂兵衛
尉光政公母儀妙雲老女^甲 辰 年痛病瓦臥
此時妙雲老母当病平喻於延命者当社御
宝殿奉為建立存御立願而已則時□誌願
感応則食居岐阜山之大工成修造之功為
莊嚴七宝散在被撰吉日良辰奉謹請大威
德天神速諸願円滿以其功力妙雲老母寿
命長遠無難無矣別而者光政公顕孝治德
為武運長久上名高代為子孫繁永治国家
七難則滅七福則生敬白 山城国京都住人

慶長拾五年^{庚戌}潤二月七日 遷宮

惠觀寺宥俊誌之

大檀那大嶋茂 大工孫左衛門尉

兵衛尉光政 藤原朝臣宗重

大寺山願興寺 大工孫介藤原朝

衆徒 臣宗直

六八 白山神社棟札

○町内石神

白山神社所藏

(表) 石神村白山大権現

(裏) 天明五^{乙巳}年十一月吉

六九 神明神社棟札

○町内石神

神明神社所藏

一 金石銘文墨書

安永六歲 上川邊 藤原氏渡邊清藏

奉上尊神明太神宮村中安全諸願成就祈処

西三月吉祥日 ^{神主}田口左京行孝

(表)

上組庄屋 平岡 藤助

同年寄 同 吉三郎

(裏) 美濃国加茂郡石神村

下組庄屋 松野 定次

同年寄 加藤柳右衛門

七〇 阿夫志奈神社棟札

○町内上川辺

阿夫志奈神社所藏

(表) 建仁二年四月十四日 祈願成就皆令満足
奉寄附阿夫志奈大菩薩御社堂改造

本願人 山城守藤原行政

(裏) 大工 藤原之桑山彦衛門長次調

二五

七一 阿夫志奈神社棟札

○町内上川辺

阿夫志奈神社所蔵

(裏)

高橋喜七郎重久 小七郎
岩井長介□□ 諸祇子敬白

権大僧都安樂院書之

維時永祿七年

奉寄進御幕壹張 大願主森蘭丸源長定

甲子二月吉日

(注記 森蘭丸の生年は永祿八年が定説となっている。)

七三 天満神社棟札

○町内下飯田

天満神社所蔵

七二 春日神社棟札

○町内鹿塩

春日神社所蔵

文政二歳_{己卯}四月廿五日

奉再邑天満宮神舩

濃州関住人 櫻井傳藏

神主 山田信濃正

中井吉衛門宗尚

大工 藤原朝臣 武彌右衛門宗久

大日本国濃州賀茂郡鹿塩村 村井仁藏宗吉

(表) 奉再建立春日大明神宮縣大明神宮

于時寛永貳拾一季_{甲申}二月廿八日本願

神主木澤藤左衛門光正 小左衛門

七四 加茂神社棟札

○町内福島

加茂神社所蔵

(火災焼失のため古記録より転写)

天正三年^{乙亥}年二月

奉上葺加茂皇大明神社一字

禰宜矢野七郎太夫

大願主肥田玄蕃允帆休

七五 白山神社棟札

○町内比久見

白山神社所藏

(表) 比久之内永祿十年^{丁卯}田口孫左衛門
(裏) 奉造立白山社息災安穩子孫繁昌處也

六月十八日 敬白

(裏) 大工 與右衛門 六人作

七六 太部神社棟札

○町内比久見

太部神社所藏

一 金石銘文墨書

修口寅月天正元^{癸酉}歲正□□文壽院敬白
奉建立太部神社 村中安全攸

大工 藤原朝臣□□□

七七 太部神社棟札

○町内比久見

太部神社所藏

(表) 式内 太部社

肥田玄蕃允義直家老

田口孫左衛門謹書

(裏) 此時天正四^{丙子}年六月十六日
比久見村氏子十六家

七八 星神社棟札

○町内下吉田

星神社所蔵

(火災焼失のため古

記録より転写)

万治元^{戊戌}年十月十五日

濃州加茂郡下吉田村中

大工下麻生村朝川田與平治勝次代々

同 長治郎

神主 清太夫

本願人 馬場彦兵衛

同賀右衛門

権大僧都玄知寶勝院

組頭処太左衛門

同 渡邊太三郎

同 杉山彦市

七九 白山神社棟札

○町内下麻生

白山神社所蔵

(表) 奉建立當山鎮守繼絶之處 本願長藏坊海□□
爲現世安穩後生善處□□ 敬白

天文十五年^{丙午}八月七日

(裏) 當山鎮守白山妙理□□□□

八〇 神明社棟札

○町内下麻生

神明社所蔵

(表) 氏子繁昌諸人快樂本願人不一牛^{新人} 大工與右衛門
奉建立天照太神宮社内安穩所 玄海書之

濃州賀茂郡麻生村慶長十四^{己酉}年正月五日敬白

(裏)

奉造立于時寛永三^{丙寅}年六月十六日 大工與右

本願人 新 八

衛門長七

玄海書之

八一 縣神社棟札

○町内下麻生

縣神社所藏

右奉爲天長地久國土泰平鄉内安穩諸人快樂
奉造營濃州賀茂郡下麻生鄉大縣御寶殿敬白

特者大檀那等丹祈成就如件

永祿八^{乙丑}年黄鐘廿一日 遷宮師阿闍梨玄海

願主□名主中

大工與右衛門

八二 縣神社棟札

○町内下麻生

縣神社所藏

右奉爲天長地久國土泰平

本願 井戸 吉藏

鄉内安穩諸人快樂

加藤新十郎

縣主

湯下助右衛門

奉造宮濃州賀茂郡下麻生鄉太縣御寶殿敬白

神社

特者大檀那等丹祈成就如件

慶長拾三白^{戊申}霜月初六日 權大僧都玄海誌之

大工与右衛門勝吉

八三 キリシタン制禁高札

○町内石神

平岡公平氏所藏

(解説) 正徳元年(一七一)に村内の高札場に立てられ、キリシタン信仰を禁じた高札である。バテレン(神父)・イルマン(宣教師)である者を訴え出るよう金銭ほう賞制度を奨励し、一方では信仰者が発見された場合は、名主・五人組の連帯責任としたものである。

定

きりしたん宗門ハ累年御制禁たり、自然不審なるものとうあらハ申出へし、御ほふひととして、

はて連人の訴人

銀五百枚

いるまんの訴人

銀三百枚

立かえり者の訴人

同 断

同宿並宗門の訴人

銀百枚

右之通下さるへし、たとい同宿宗門の内たりといふとも、申出る品により銀五百枚下さるへし、隠置他所よりあらはるるにおいてハ、其訴の名主並五人組は一類ともに可被断罪もの也

正徳元年五月

奉行

八四 野火取締高札

○町内石神

平岡公平氏所蔵

(解説) 文政一三年(一八三〇)に掲額された高札である。

近年野火火災が多く、そのため村役人は見回りをを行い、一たん火災が発生した場合は、村人全員にて消火にあたること。また火付を行った者は、嚴重に取調べを実施することなどである。

定

諸國在々におゐて近年野火火附候もの多く、諸人難儀之趣相聞候ニ付、向後野火附候もの有之は御領私領共嚴敷遂穿鑿之、他支配他領之無差別満成召捕候儀は勿論、之儀たとへ風聞たりとも召捕其筋へ可差出捕違ひハ不苦事

一御林ハ勿論、其外山林萱野等冬春之内は村役人共申合、時々見廻野火無様精々心附可申事
但風烈之節見廻人数相増別て入急可事

一いつれ之村方ニても野火有之は、村内之ものハ勿論御料私領之無差別、近郷近在之もの共早々駈付消留、其時々野火之始末可訴出事

一野火附候ものハ向後急度吟味之上、其次第寄可被行重科事

右之通此度被仰出候間、村役人は勿論小前末々之もの迄御趣意之趣得様弁、向後野火附候もの有之候ハハ、嚴敷遂穿鑿御料私領之無差別其所に留置可訴出差、以相調御たし置におゐてハ、村役人共急度御咎可被仰付もの也

文政十三庚年寅正月

福 三郎兵衛

八五 大政奉還による高札

○町内西栃井

田原耕作氏所蔵

(解説) 慶応三年(一八六七)十一月、徳川一五代將軍慶喜が征夷大將軍の職を辞し、政權を朝廷に返上したが、

その後兵火が起こり、朝廷と幕府の対立が続いていた。そのため人心の安定をはかる目的から、朝議に服するよう高札をもって布告したものである。

徳川慶喜天下之形勢不得已察し、大政返上將軍職辞退相願候ニ付、朝議之上断然被聞召候処、唯大政返上と申のみにて於朝廷土地人民御繰被逢候ては、御聖業難被為立候ニ付、尾越二藩を以御訊問被遊候節、於慶喜は奉畏候得共麾下並会桑之者共承伏不仕、万一暴挙可仕哉も難斗候ニ付、只管鎮撫ニ尽力仕居候旨尾越被及言上ニ候間、朝廷ニは慶喜真ニ恭順を尽候様被思召、既往之罪不為問寛大之御処置可被仰付候処、豈凶哉大坂城え引取候は素より詐謀にて、去ル三日麾下之者を引率剩え前ニ御暇被遣候会桑等を先鋒として、闕下を奉犯候勢現在彼より兵端を開き候上は、慶喜反状明白終始奉欺朝廷候段、大逆無道最早於朝廷御宥怒之道も絶果、不致為得已追討被仰付候、兵端既ニ相開キ以上は速に賊徒御平治、万民塗炭之苦被為救度叡慮候間、今般仁和寺宮征討將軍ニ被任候ニ付ては、是迄偷安怠惰ニ相過、或は両端を抱き候者は勿論、假令賊徒ニ隨

ひ譜代臣下之者たりとも、悔悟憤発国家之為尽忠之志
興起之輩者、寛大之思召を以御採用可被為在候、但依
戦功此行末徳川家之儀ニ付歎願之義も候得は、其筋よ
り御許容可有之候、然ニ此御時節ニ至リ不弁大義賊徒
と謀を通し、或は潜居及致候ものは、朝敵同様嚴刑可
被処候間心得違無之様可致候事

但征討將軍を被置候上は、即時前件号令可相発は勿論
候得共、猶旗本粗暴之徒等雍蔽爰ニ至候事哉と、彼是
深重之思召を以御遅延之处、三日より今七日ニ至り坂
兵日ニ離、敗走益出兵夷ニ不被為得已断然本之通被仰
出候、各藩陪從吏卒ニ至迄方向を定、為天下奉公可有
之候事

辰正月

参与

八六 太政官布告高札

○町内石神

平岡公平氏所蔵

〔解説〕 慶応四年（一八六八）三月に出された太政官（最
高官庁）布告である。笠松県設置とともに人心の安定を目
的としたもので、浮浪者の取締りと、みだりに人々の移動
を禁じ、すべて政府の指示に従うことを求めたものである。

覚

王政御一新ニ付ては、速ニ天下御平定万民安堵ニ至り、
諸氏其所を明ニ申様、御煩慮被為在候ニ付、此折柄天
下浮浪之者有之候様にては不相濟候、自然今日之形勢
を窺ひ、猥リニ士民とも本国を脱走致し候儀堅く被差
留候、万一脱国之者有之不埒の所業致し候節は、主宰
之者落度たるべく候、尤此御時節ニ付無上下、皇国之
御為又は主家之為筋等存込建言致し候者ハ、其路を開
き公正之心を以其旨趣を答させ、依願太政官代えも可
申出被仰出候事、但今後総て士奉公人不及申、農商奉
公人ニ至る迄相抱候節は、出所篤と相糺し可申、自然
脱走之者相抱不埒出来御厄害ニ立至り候節ハ、其主人
之落度たるべく候事

三月

太政官

右之通被仰出條可得其意もの也

笠松縣

(裏)

加茂郡中川辺村

八七 太政官布告高札

○町内中川辺

矢嶋弓男氏所蔵

八八 太政官布告高札

○町内中川辺

矢嶋弓男氏所蔵

(解説) 慶応四年(一八六八)三月に出された太政官(最高官庁)布告である。五枚一組の高札の中の一枚で、人倫の道を説き、特に寡婦・独居人・身障者を援助することなどを求めている。

定

- (表)
- 一 人たるもの五倫之道を正しくすへき事
 - 一 鰥寡孤独^{かんか}廃疾之ものを憫むへき事
 - 一 人を殺し家を焼き財を盗む等之悪業有ましく事
- 慶応四年三月

太政官

(解説) 慶応四年(一八六八)三月に出された太政官(最高官庁)布告である。五枚一組の高札の中の一枚で、徒党・強訴・逃散を禁じたものである。

定

- (表)
- 何事によらずよろしからざる事に大勢申合候をとと
 - うとなへ、ととうじてしいて願かひ事くわたつる
 - をこうそといひ、あるひは申合せ居町居村をたちの
 - き候をてうさんと申す、かたく御法度たり、若右類
 - 之儀是あらは早々その筋の役所へ申出へし、御ほふ
 - ひ下さるへく事
- 慶応四年三月

太政官

第一部 記録の部

三四

(裏)

加茂郡中川辺村

九〇 八幡神社人物額

○町内下川辺

八九 太政官布告高札

○町内中川辺

矢嶋弓男氏所蔵

奉 掛 御 寶 前
皆寛保貳戌年

八幡神社所蔵

(解説) 慶応四年(一八六八)三月に出された太政官(最高官庁)布告である。五枚一組の高札の中の一枚で、これ

までと同様キリシタン信仰を禁じたものである。

武者像
七月吉日
笹今平

定

九一 太部古天神社絵馬

(表) 一切支丹宗門之儀は是迄御制禁之通固く相守事
一 邪宗門之儀は固く禁止候事

○町内中川辺

慶応四年三月

太部古天神社所蔵

太政官

(金毘羅神社)

(裏)

加茂郡中川辺村

時文久三^{癸亥}孟秋吉日 願主寅年男

奉 納
(神馬と供男二人)

九二 太部古天神社絵馬

○町内中川辺

太部古天神社所蔵

(金毘羅神社)

(裏) 川辺御役所

(年月不詳)

献 奉

(神 馬)

大嶋氏

(年月不詳)

(表) 献 奉

(神 馬)

大嶋氏

九三 阿夫志奈神社人物額

○町内上川辺

阿夫志奈神社所蔵

(裏)

中川辺陣屋

大嶋元之進

亥年男

武運長久 為祈所

(表)

奉 宝曆十二年十一月
懸 御 (高砂人物像)
宝 前

一 金石銘文墨書

○町内上川辺

阿夫志奈神社所蔵

九五 桑の木観音堂人物額

○町内比久見

桑の木観音堂所蔵

九七 俳原観音堂絵馬

○町内下麻生

俳原観音堂所蔵

奉納

文化十有五年戊寅三月穀旦

(女人像)

里君

俳句三題(不明)

都石敬白

花友

奉納 (神馬)

(年月不詳)

当村

前島熊太郎

九六 虚空蔵菩薩堂絵馬

○町内下吉田

虚空蔵菩薩堂所蔵

九八 大嶋義唯画像

○町内中川辺

妙雲寺所蔵

(年月不詳)

奉掛 (乗武者二人と馬二匹)

下麻生

(解説) 大嶋義唯は、旗本川辺大嶋氏の二代目の当主で、

茂兵衛義唯と称した。

竹腰氏

慶安三年^{庚寅}八月二十五日卒

累代弓箭發佳名

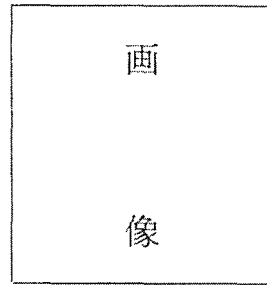
于忠于孝又正誠

年筭稍半已終世

寫照惟肖應湜情

南無妙法蓮華經

大崇院殿圓齊日良大居士



小湊權律師日透 (花押)

九九 中興賢龍禪師頂相

○町内西栃井

禪原寺所藏

前天猷現霑珠統天宜元寥

峇寶曆龍躔乙亥孟陬月

而焚香拜贊焉

不堪固辭操觚於勢之霑珠

後需贊余在派末荷恩不輕

一 金石銘文墨書

上足睦翁座元寫師真相滅

平田山禪原中興賢龍禪師之

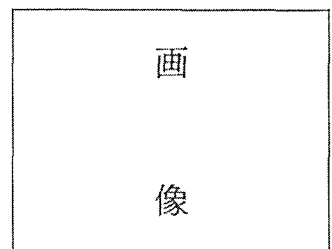
逼人惡毒難消盡 的三相承佛祖寬

栽培龍松根底 鐵鑊鼎新覺園

斬平田淺草 鉏斧興禪原

肅然威貌 畫中全存

瑞巖眞子 拔山的孫



一〇〇 中興絕心禪師頂相

○町内比久見

妙樂寺所藏

默隱和尚繪先師絕心和尚

肖像需讚詞我能知此□

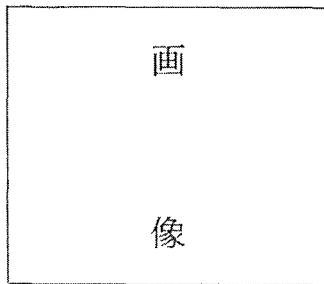
故不敬辭漫掛獎語於□

□讚曰

流傳宗教大法昌請絕

心地妙樂道場祝蒙

本寺陽紫勅黃明□



慈昭照臨十方

貞享五戊辰年仲夏十五日

前妙心萬拙知春敬讚

一〇一 中興擔霖禪師頂相

○町内比久見

龍洞寺所藏

桂林弊隱黙々巖梵香謹拜贊

天明八歲次戊申仲秋日

綴莠語以題于幃上云爾

持來請贊余雖顧鄙陋義不可拒因

印來繼席於龍洞矣屬者繪于眞容

劣徒禪柯禪人嘗得蒲廬祝帶師之

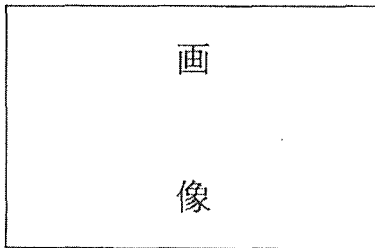
開祖威風難抹捷毒龍雲深洞中眠

嘆

出踞虎丘層巔

退隱耕月深蓊

改建龍洞窟 師資以法系傳



曾結夾山會 鸞鳳覽德輝降

董席擔霖老禪

搬土宗平公古

花園視古篆賜紫衣於九天

蓬左拈破磨建紺殿於三處

胸天瀟洒 氣宇凜然

一〇二 開山愚堂国師頂相

○町内下麻生

臨川寺所藏

再住妙心牧翁祖牛薰沐拜題

仲春佛涅槃日

維時延宝三歲次_{丙辰}

李四名之謂愚堂東寔和尚顚頂

雜碎鉅團圓張三呼之稱大圓寶鑑國師尊像

盤宛轉詩韻清純漲蜀江於舌上錦繡爛班百

旨通十方大維〃文章微妙吞雲夢於胸中玉

篋振起閃電灼爍人天墮肝閑名落五湖慙媿〃密

安眠高卧對青山
棒喝交馳迅雷霹靂
佛祖乞命拂
觀恢開甘露門
收得虎尾道化
萬般哀憐
攝受移冒
中輿挽回倒瀾
恭佩御炉香
瞞昧 龍顏天下大
巖霜面目宗門
羽翰續庸山正脉
端居毒悔成東陽
(贊の下に画像あり)

